

○令和元年度教育事業

「ボランティア養成塾～春編～」 令和元年6月1日（土）～2日（日）

◆目的

青少年の体験活動を支援するボランティアを行う上で必要な知識・技能について学ぶとともに、青年層の自立を促し、生きがいを見出し生き抜く力を磨く機会とします。

令和元年度 国立大雪青少年交流の家教育事業

ボランティア 養成塾～春編～

★ボランティア養成講習を受けて法人ボランティアに登録すると…

体験から学べる！！

たくさんの仲間とつながる！！

子供が育つ手助けができる！！

青少年教育施設では、様々な体験活動を行う場から成長していく子供たちの手助けとして、多くのボランティアが活躍しています。また、ボランティア活動を通して、学生や社会人の人たちが多くの経験を得て、人との関わり方や様々な技術を学び、活かし口にします。ボランティア活動の意義や必要な技術も、実際の体験から学ぶことができます。子供たちとの関わりを通して社会に役立つ力を伸ばしてあげませんか？

6/1(土) ～ 2(日)

●対象 大学生、短大生
専門学生、社会人

●参加費用 2,260円

独立行政法人 国立青少年教育振興機構
国立大雪青少年交流の家
National Taietsu Youth Friendship Center
〒011-0229 北海道 紋別市 国交ビル3階
TEL:0166-94-3121 / FAX:0166-94-3223

【QRコードで申込】
参加を希望する方が、ほしたら、QRコードを読み込み、WEBから申込できます。



◆参加者実績（募集20名）参加者数：9名

- ・大学生 3名
- ・教育委員会 3名
- ・教員 1名
- ・一般 2名



◆プログラム

- ① 講義【子どもたちのいまを知ろう】
講師：国立大雪青少年交流の家 所長 渡部 徹
・今日の青少年教育の課題や体験活動の必要性について理解を深めた。
- ② 講義・演習【安全にボランティア活動を行うためには①】
講師：国立大雪青少年交流の家 次長 田中 豊
・野外炊事活動をととして、安全な活動に関する知識や技術を身に付けた。
- ③ 講義【安全にボランティア活動を行うためには②】
講師：国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職 安達 義徳
・野外炊事活動を振り返り、安全な活動について話し合い、理解を深めた。
- ④ 講義・演習【青少年教育施設の「いま」を知ろう】
講師：国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職 安達 義徳
・青少年教育施設で実施されている教育活動について、理解を深めた。



⑤ 演習【ボランティア活動の実践】

- ・親子対象事業「たびうさぎファミリー～春編～」での実践的なボランティア活動をとおり、プログラムに対応するための知識・技術等を学んだ。



⑥ 講義・演習【教育施設のボランティアの意義】

講師：公益財団法人キープ協会 増田 直広 氏

- ・ボランティア活動の意義について理解するとともに、ボランティア活動における心構えや留意点を学んだ。

⑦ まとめ

講師：国立大雪青少年交流の家 企画指導専門職 安達 義徳

- ・法人ボランティア登録制度について理解を深めた。



◆成果

- 1泊2日の研修の中で、実際にボランティア活動を体験する演習を設定した。学びと活動が両輪で働くようなプログラム配置をすることで、参加者の学びをより深めることができた。
- 受講者9名全員が法人ボランティア登録を行った。内3名については、登録後に本施設の主催事業において実際にボランティア活動を行った。

◆参加者の声

- 年齢も職業もばらばらな方々と2日間過ごすことができ楽しかったです。
- 事業を企画する立場でもあるため、しかける側—協力者—参加者、様々な目線で知ることができ、大変ためになりました。
- 子供たちや仲間たちより元気をいただき、益々勉強して社会に貢献しようと思います。

◆事業運営のツボ・工夫・反省

- これまで1日目に設定していた「教育施設ボランティアの意義」の講座を2日目に設定することで、参加者が実際に施設ボランティアとして活動を行い、体験したことをベースにしながら、施設ボランティアの意義について学びを深めることができた。
- 受講者が定員に満たなかった。参加対象である学生や教員などの社会人の方々が、実施時期の6月上旬は運動会や学校祭などの行事と重なっていたことが要因の一つとして挙げられる。次年度は、地域や学校の状況を把握し、開催時期を決定する必要がある。

◆事業運営費

・業務委託費	125,902 円
・旅費	3,3760 円
・燃料費	15,574 円
・郵送費	12,423 円
・印刷費	13,608 円
・消耗品費	5,898 円
合計	207,165 円